

教師ノート

週課	第三年 第一課 第五週
単元	ヨハネの福音書・1
テーマ	栄光の主
タイトル	盲人のいやし
テキスト	ヨハネ 9:1-12
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) ヨハネ 9:3
AG 日曜学校教案参照箇所	
導入	<p>みなさん、今から先生がいいというまで目を閉じて下さい。(時間を教えずに 2 分から 3 分間閉じてみる) どうですか? どんな事を感じましたか? (暗い、不安、見たくなる・・・など子どもたちの感想を言わせて下さい。目を閉じる事と開いている事の違いを感じて欲しいのです。)</p>
□ポイント1 生まれつきの盲人がいました。(:1)	<p>この人は、生まれた時から目が見えませんでした。お父さんの顔もお母さんの顔も見た事はありませんでした。働く事も出来ないで、道ばたに座ってみんなからお金を恵んでもらうしかなかったのです。恥ずかしかつたでしょう、けれどそうしないと、ご飯も食べられずに死んでしまうからです。どんなに悲しかったでしょうね。「どうして自分は生まれてきたんだろう」と思っていたかもしれません。</p> <p>そして多くの人は「ああ、またあの盲人がいる」と思いながら、道をよけて歩いていたかもしれません。しかしイエス様は、その盲人を見つめられました。無視しませんでした。まだ盲人はイエス様を見ることができませんし、まだイエス様に気づいていませんが、イエス様は確かにその盲人を見つめています。</p> <p>問い: イエス様はどんな思いで、その盲人を見つめられたと思いますか? 問い: イエス様は私たちのことも見つめていると思いますか?</p>
□ポイント2 盲人はイエス様と出会いました。(:1)	<p>ちょうどこの人の近くにきた時、お弟子さんが質問しました。(:2)</p> <p>これにはいろいろな説がありますが、人間の災いは本人やその両親の罪に責任があると考えられていたようです。(参照:出エジプト 20:5,34:7,民数記 14:18 など、バークレー著 ヨハネ福音書下) それで、弟子はイエス様に聞いてみたのでしょう。イエス様は、誰かの罪の結果ではなく、神の栄光が現れるためであるとおっしゃいました。これには、弟子たちも驚いたでしょう。今まで先祖の代から聞いて来た事と違う事をイエス様がおっしゃったからです。</p> <p>神様の栄光が現れるとはどういうことなのでしょう? 弟子たちにはさっぱりわかりませんでした。</p> <p>*「栄光」という言葉を、低学年の子どもたちには「神様の素晴らしさ」と説明しても良いでしょう。つまり「神の栄光が現わされる」とは、「神様って何て素晴らしいんでしょう!」と賛美せずにはおれないことが起こるということです。</p>

□ポイント3 イエス様は盲人を癒されました。

イエス様は、地面につばを吐き泥を作られました。それを盲人の目に塗ったのです。そして次に「シロアムの池に行って洗いなさい」(7)と言われたのです。ただ泥を目に塗っただけです。「ばかばかしい」と言いませんでした。言われた通りに池に行って目を洗ったのです。

どうなったでしょう？ 見えます！ 今まで見た事がないいろいろな物がみえるようになったのです。

□結論 盲人が見えるようになって神様の栄光が現されました。

暗唱聖句を読み上げます

□適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

何か不幸なことがあると因縁やのろい、祟りだなどと言われることがあります。しかし、そのようなものはありません。イエス様が証明して下さいました。あなたもどんな悪いと思える状況にあってもイエス様によって神様の栄光に変えていただくことができます。あなたの人生はあなただけのものです。イエス様が光として来て下さったのです。イエス様を心にお迎えするなら、あなたも神様の栄光に預かるのです。もし、怖くなったときは、イエス様にお祈りしましょう。

☞先祖ののろいについて

何か不幸なことが続いたりすると、それは「先祖ののろいだ」と言う人がいるそうです。でもね、よく考えて下さい。みんなのおじいちゃんやおばあちゃんが、みんなをわざわざ苦しめたり、嫌な目にあわせたりするのでしょうか？ そんなことはありません。自分の子どもたちや孫たちに幸せになって欲しいと誰よりも強く思っています。だから先祖ののろいとたたたりとかは、ありませんよ。

◎問いかけ：自分では絶対無理だと思うことについて

「もともと頭が悪いから勉強したって無理だ」、「ケンカをしたあんな奴と仲直りするの絶対できない」、「こんな家に生まれてきたから仕方がない」、そういう「しょうがない」とあきらめていることや、「どうせ無理だ・・・」思っていることはありませんか？

イエス様はみんなが「無理だ」と思うことをどう思っておられるでしょう？（子どもたちが自分の思いを見つめているところから、イエス様の思いに目を向けさせるように導く。）

☞ そういう子どもたちに寄り添いイエス様と同じ気持ちで配慮しながら、イエス様が愛のまなざしで見つめておられること、「不幸だ」と思っているまさにそのことに神の栄光を現わして下さること、イエス様はその絶対を変えることができるお方だということ、人には出来なくても「主は素晴らしい」と賛美に変えて下さるイエス様を子どもたちと共に見上げ、一緒にシロアム池に行くような思いでお話すると良いでしょう。